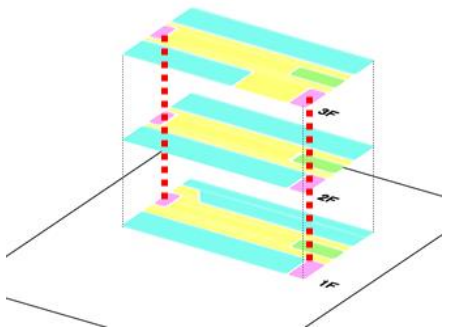
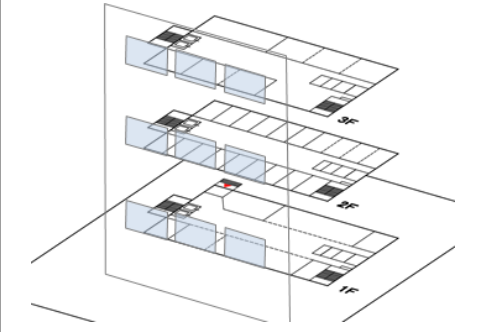


4 (1) 設計成果物について

各設計・施工段階でのアウトプットイメージ

設計段階ごとにアウトライン・ボリュームが決まり、精緻化されていきます。

	基本計画	基本設計	実施設計	施工段階
イメージ			詳細図	施設建設
主な決定事項	<ul style="list-style-type: none"> □ 建物規模（階数など） □ 配置・概略平面 □ 必要諸室（レイアウト＋規模） □ 動線（出入口位置、利用者・管理者・身障者動線等） □ 構造計画方針 □ 設備計画方針 □ 概算事業費 	<ul style="list-style-type: none"> □ 材料（外装）＋外観デザイン □ 必要諸室（面積） □ セキュリティライン □ 平面・断面 □ 構造計画（構造形式等） □ 設備計画（熱源、受変電等基幹要素） □ ZEBランク □ 事業費 	<ul style="list-style-type: none"> □ 材料（内装） □ 平面詳細図（家具レイアウト等） □ 展開図、建具図等 □ 構造計画（各種部材等） □ 設備計画（配管配線等） □ 工事費（設計積算） □ ライフサイクルコスト □ 各種申請 	<ul style="list-style-type: none"> □ 施工図 □ 総合図 □ 製作図 □ 完成図（竣工図）
工事費確定度	60%	80%	96%	100%

残り4%は
外部要因・設計変更
などによる金額変動

各設計段階での**成果品**

成果品の中から検討委員会で報告・協議を行うものを抽出し、ご確認いただく予定です

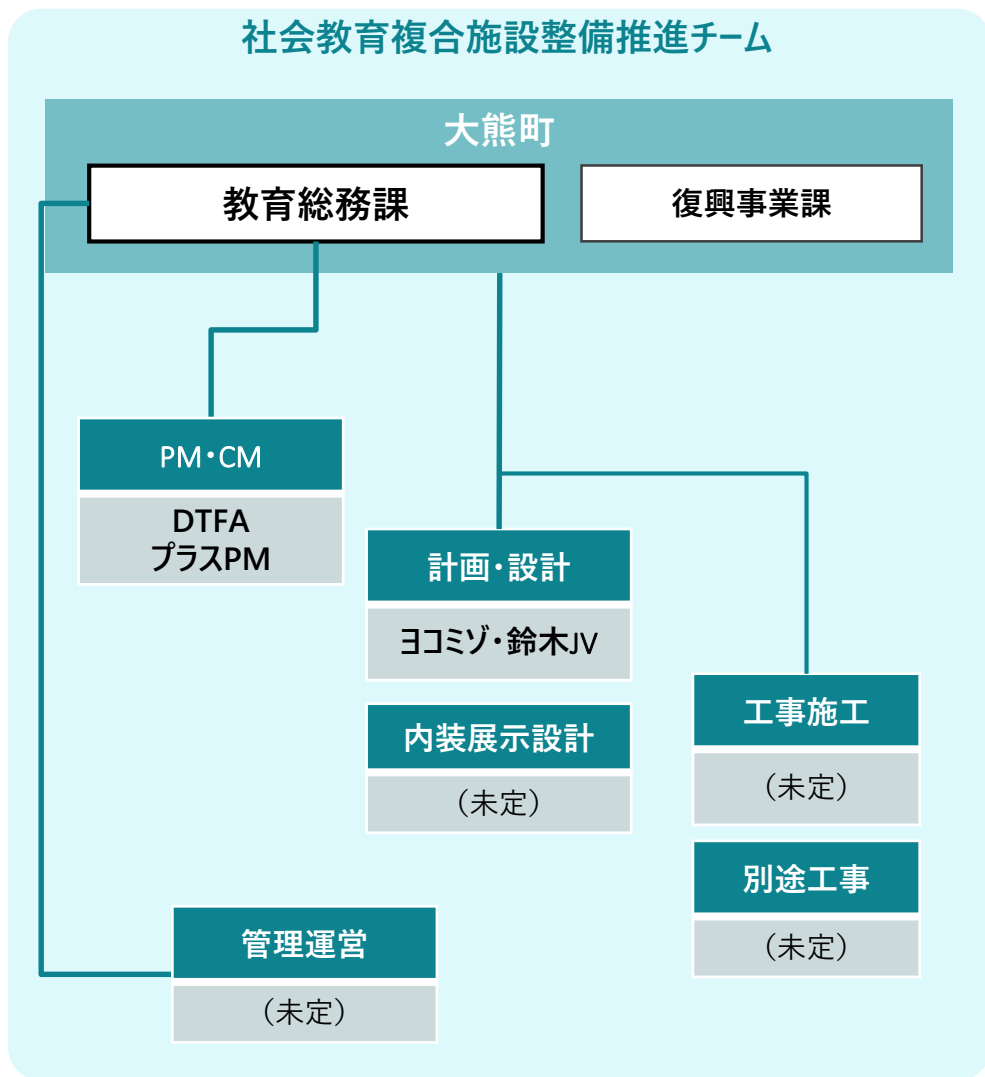
R6.3末までにまとめ予定

	基本計画	基本設計	実施設計	施工段階
主な決定事項	<ul style="list-style-type: none"> □ 建物規模（階数など） □ 配置・概略平面 □ 必要諸室（レイアウト＋規模） □ 動線（出入口位置、利用者・管理者・身障者動線等） □ 構造計画方針 □ 設備計画方針 □ 概算事業費 	<ul style="list-style-type: none"> □ 材料（外装）＋外観デザイン □ 必要諸室（面積） □ セキュリティライン □ 平面・断面 □ 構造計画（構造形式等） □ 設備計画（熱源、受変電等） □ ZEBランク □ 事業費 	<ul style="list-style-type: none"> □ 材料（内装） □ 平面詳細図（家具レイアウト等） □ 展開図、建具図等 □ 構造計画（各種部材等） □ 設備計画（配管配線等） □ 工事費（設計積算） □ ライフサイクルコスト □ 各種申請 	<ul style="list-style-type: none"> □ 施工図 □ 総合図 □ 製作図 □ 完成図（竣工図）
成果品（仕様書より一部抜粋）	<p>○施設整備基本計画</p> <p>敷地状況／施設整備の考え方・コンセプト／必要機能・諸室及び規模一覧／建物配置図／空間計画（機能配置図、動線計画、駐車場等附属施設の配置計画等）／建築（意匠）計画／内装・収蔵方針／構造計画／耐震計画／設備計画／ユニバーサルデザイン計画／環境計画（省エネ計画、自然エネルギー利用計画）／防災計画</p>	<p>○建築（総合）基本設計図書 計画説明書／仕様概要書／仕上概要表／面積表及び求積図／敷地案内図／配置図／平面図（各階）／断面図／立面図（各面）／日影図</p> <p>○建築（構造）基本設計図書 計画説明書／設計概要書</p> <p>○電気・機械設備基本設計図書 計画説明書／設計概要書</p> <p>○対象建築物の省エネルギー計画書</p> <p>○ZEB検討比較書</p> <p>○資料情報基本計画</p> <p>○透視図 ○模型</p> <p>○ライフサイクルコスト検討書</p> <p>○長期修繕計画案</p> <p>共通○工事費概算書○仮設計画概要書</p>	<p>○建築（総合）設計図 建築物概要書／仕様書／仕上表／面積表及び求積図／敷地案内図／配置図／平面図（各階）／断面図／立面図（各面）／矩計図／展開図／天井伏図（各階）／平面詳細図／部分詳細図（断面含む）／建具表／外構図／日影図／総合仮設計画図／家具什器レイアウト図</p> <p>○建築（構造）設計図 仕様書／伏図（各階）／軸組図／部材断面表／各部断面図／標準詳細図／各部詳細図</p> <p>○電気設備設計図（一部省略） 仕様書／電灯設備図／動力設備図／電気自動車用充電設備図／電熱設備図／雷保護設備図／受変電設備図／電力貯蔵設備図／発電設備図／構内情報通信網設備図／構内交換設備図／情報表示設備図／映像・音響設備図／電気時計拡声設備図／誘導支援設備図／インターホン設備図／テレビ共同受信設備図／テレビ電波障害防除設備図／監視カメラ設備図／駐車場管制設備図／防犯・入退室管理設備図／火災報知設備図／中央監視制御設備図／構内配電線路図／構内通信線路図</p> <p>○空気調和設備設計図（一部省略） 仕様書／機器表／空気調和設備図／換気設備図／排煙設備図／自動制御設備図／屋外設備図</p> <p>○給排水衛生設備設計図（一部省略） 仕様書／機器表／衛生器具設備図／給水設備図／排水設備図 給湯設備図／消火設備図／厨房設備図／ガス設備図／浄化槽設備図／ごみ処理設備図／さく井設備図／屋外設備図</p> <p>○昇降機設備設計図：昇降機設備図／搬送機設備図</p> <p>共通○各種計算書○工事費概算書 ○計画通知図書（確認申請書）</p>	

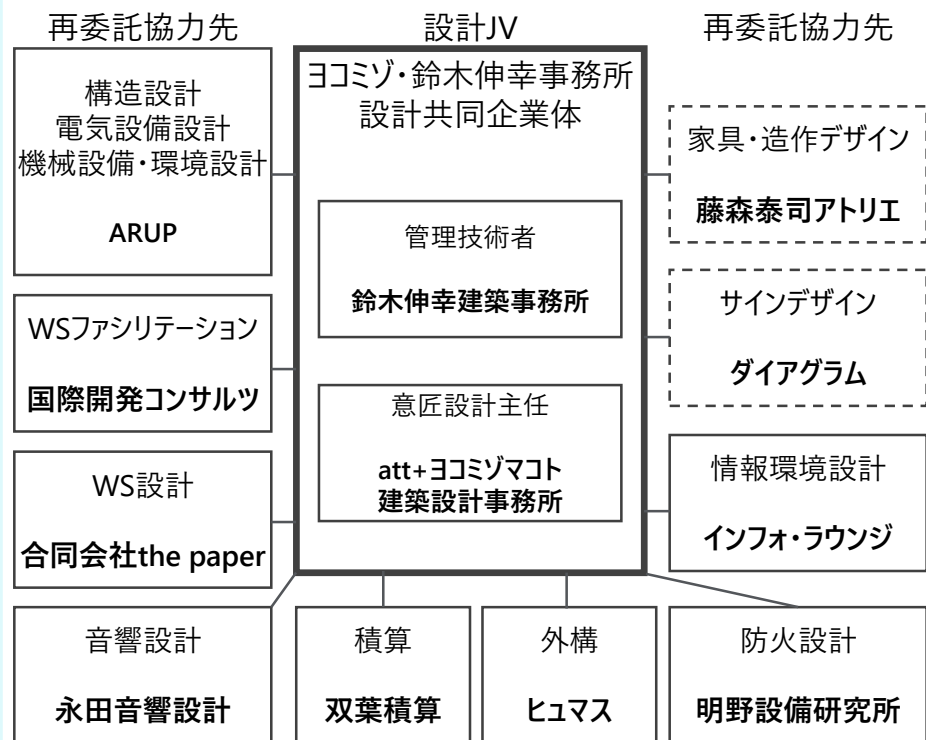
4 (2) ①設計業務体制・進捗

推進体制および設計JV体制

推進体制



設計JV体制



※破線は内装展示設計者との調整業務

設計定例会・設計分科会を2週に1回、WS分科会を不定期で適宜実施し、業務を進めています。

日付	名称	内容
2023年10月11日	設計定例	キックオフ、体制・マスタスケジュール等
2023年11月1日	設計定例	発注者要望事項、デジタル・リアル融合、内装設計業務発注内容、基本計画進め方、管理運営計画進め方等
2023年11月15日	設計定例	基本計画進め方(分科会の開催提案：設計者)、各諸室関係検討WSシート提案（設計者）等
2023年11月29日	設計定例	各諸室等課題要件検討、基本計画目次提案（設計者）等
2023年12月13日	設計定例	各諸室等課題要件検討、基本計画目次修正提案（PM）等
2023年12月27日	設計定例	スマートコミュニティ事業共有（ゼロカーボン課等）、駅西基盤整備事業共有（UR）、各諸室等課題要件検討等

日付	名称	内容
2023年11月15日	設計分科会	技術提案書詳細説明（設計者）、各諸室関係検討WSシート共有（設計者）等
2023年11月29日	設計分科会	基本計画詳細検討、構造検討事項共有（設計者）、設備検討事項共有（設計者）等
2023年12月13日	設計分科会	施設コンセプト提案（設計者）、ブロック図提案（設計者）等
2023年12月27日	設計分科会	発注者検討事項共有（PM）等

日付	名称	内容
2023年11月14日	WS分科会	基本計画策定におけるWSの位置づけ・反映イメージの共有等
2023年11月21日	WS分科会	PM・設計者各担当WSの役割確認、1月以降のWS内容・日程検討
2023年11月24日	WS分科会	1月以降WS広報検討
2023年12月11日	WS分科会	1月以降WS内容詳細検討
2023年12月25日	WS分科会	1月以降WS広報・内容詳細検討

4 (2) ②基本計画目次案

基本計画は下記の目次にてのとりまとめを検討しています。本日5協議事項（1）基本計画（設計）について、にて赤枠内に関する事項へのご意見をいただきたいと考えています。

基本計画目次案（1/2） ※本日は赤枠の部分を中心に確認・協議

第1章 はじめに

1-1基本計画策定の趣旨・背景

1-2基本計画の位置づけ

第2章 活動方針と施設機能

2-1施設機能融合の考え方

2-2図書館機能

(1) 図書館の基本方針

(2) 資料収集方針・書架配置方針

(3) 図書館サービス

①資料貸出・閲覧・レファレンスサービス

②デジタル資料情報整備

③早期サービス開始

(4) 利用対象別サービス

①各年代・世代向けのサービス

②大熊に関心を持つすべての人たちへのサービス

③移動図書館

(5) ユニバーサルデザイン

2-3 博物館機能

(1) 博物館の基本方針

(2) 資料収集・保存計画

①収集・保存の対象

②収集・保存の体制

③公文書の取り扱い

④デジタルアーカイブ

(3) 展示機能

① 常設・企画展示計画

② デジタルアーカイブ展示

③ 吉田家住宅利活用方針

(4) 調査・研究機能

(5) 学習支援機能

(6) 燻蒸・放射能汚染対策について

(7) ユニバーサルデザイン

2-4 公民館機能

(1) 公民館の基本方針

(2) 想定される利用者とその活動

2-5 機能共通

(1) 周辺施設との連携・交流

(2) ユニバーサルデザイン

2-6 資料情報基本計画

(1) 基本方針と課題

(2) 必要な機器や設備

2-7 管理運営計画

(1) 検討方針

(2) 複合施設を構成する各部門の業務

(3) 検討課題と現状の方針

2-8 ワークショップ計画

(1) 実施方針

(2) 今後の予定

基本計画は下記の目次にてのとりまとめを検討しています。

基本計画目次案 (2/2) 【参考】

第3章 施設整備計画

3-1 敷地状況

- (1) 計画地及び周辺状況

3-2 施設整備の考え方・コンセプト

- (1) コンセプト
- (2) 基本方針
- (3) 整備の進め方

3-3 必要機能・諸室及び規模一覧

- (1) 必要諸室の規模
- (2) 附帯施設の規模

3-4 建物配置図

3-5 空間計画(機能配置図、動線計画、駐車場等附帯施設の配置計画等)

- (1) 機能配置図
- (2) 動線計画
- (3) 駐車場等附帯施設の配置計画等
- (4) セキュリティ計画

3-6 建築(意匠)計画

- (1) 意匠計画
- (2) スタディ模型・CGパース

3-7 内装・収蔵方針

- (1) 内装方針
- (2) 収蔵方針
- (3) 移管物等の資料活用の検討

3-8 構造計画・耐震計画

- (1) 構造計画
- (2) 耐震計画
- (3) 建物長寿命化の検討

3-9 設備計画

3-10 ユニバーサルデザイン計画

3-11 環境計画(省エネ計画、自然エネルギー利用計画)

- (1) 省エネ計画
- (2) 自然エネルギー利用計画
- (3) ZEB導入の考え方・検討

3-12 防災計画

3-13 枯らし期間の考え方

第4章 整備手法・概算事業費

4-1 内装展示設計について

4-2 概算工事費

第5章 その他

5-1 検討委員会報告

- (1) 第6回
- (2) 第7回
- (3) 第8回

5-2 ワークショップ報告

- (1) R5年度実施報告
 - ①ふるさとまつり
 - ②第3回
 - ③第4回
 - ④第5回

4 (3) 管理運営検討から設計者への伝達事項

業務の棚卸・内容確認の実施を経たうえで、基本計画に反映させるべき「必要な室とその広さ」「必要な設備」「動線・配置」の項目を設計者に伝達していきます。

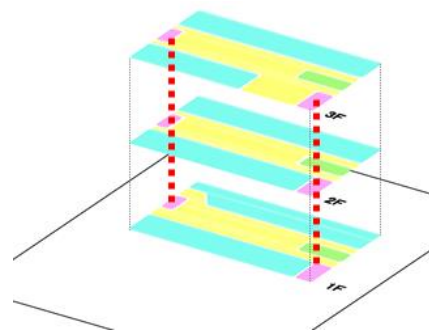
基本計画への反映事項概要

管理運営手法の検討に向けて
複合施設で実施の想定される

- 運營業務
- 管理業務
- 社会教育事業

の一覧化・内容整理を実施

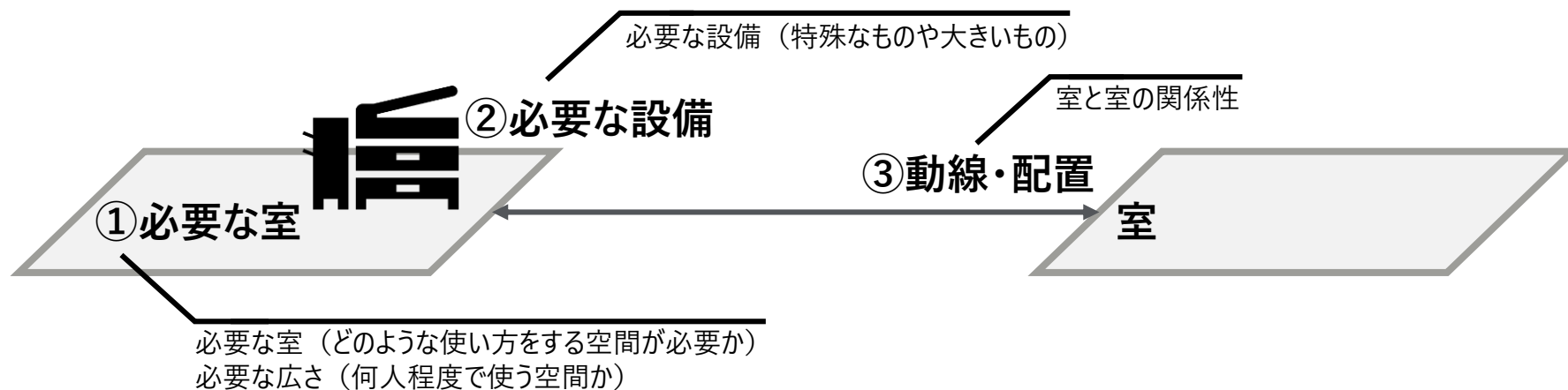
※一覧化・内容整理にあたっては図書館は従前の図書館の業務・実施イベント、博物館は他の施設の業務・イベント、公民館は従前及び現在の社会教育事業を主に参照



基本計画段階では

- ✓ 建物規模（階数など）
 - ✓ 配置・概略平面
 - ✓ 必要諸室（レイアウト+規模）
 - ✓ 動線（出入口位置、利用者・管理者・身障者動線等）
 - ✓ 構造計画方針
 - ✓ 設備計画方針
 - ✓ 概算事業費
- の決定が必要

以下の①～③の事項を設計者に伝達



機能ごとに「必要な室とその広さ」「必要な設備」「動線・配置」の項目を設計者に伝達していきます。

設計者への伝達事項

共通

必要な室

- ✓ 事務室（広さ）
- ✓ 管理諸室（休憩室、給湯室）
- ✓ 会議室（各種審議会等）の広さ（参加人数）
- ✓ ボランティアの作業室

必要な設備

- ✓ 情報発信（デジタル媒体・紙媒体）の設備
- ✓ 集約必要な統計の調査設備
- ✓ 貸室予約の設備

動線配置

- ✓ 複数機能の開館時間をわける工夫（貸室の延長運営のための動線検討、返却ポスト等）
- ✓ セキュリティを守る動線（職員動線とボランティア動線の一部の分離など）
- ✓ 職員用出入口の有無

図書館機能

必要な室

- ✓ 特定資料コーナー（特定主題資料、行政資料など）
- ✓ 特設コーナー（新着図書、企画コーナー）
- ✓ 音の出る作業の可能な部屋（補修作業・督促の電話等）
- ✓ 読み聞かせスペース

必要な設備

- ✓ BDS（ブックディテクションシステム）
- ✓ 閉架書庫機器
- ✓ 自動貸し出しシステム

機能ごとに「必要な室とその広さ」「必要な設備」「動線・配置」の項目を設計者に伝達していきます。

設計者への伝達事項

博物館機能

必要な室

- ✓ 収蔵庫・特別収蔵庫・前室・撮影室
- ✓ 資料整理の作業室
- ✓ 企画展示室
- ✓ (常設展示室)
- ✓ 展示準備室

必要な設備

- ✓ 蔵庫・企画展示室等の資料に応じた管理のための設備 (複数系統の空調、日射遮断)
- ✓ 資料清掃、燻蒸
- ✓ 廃棄物処理
- ✓ 利用者の入れる収蔵庫 (バックヤードツアー等の想定)

動線配置

- ✓ 資料搬入から収蔵庫に至る動線

公民館機能


必要な室

- ✓ 各種社会教育事業・イベント (今後WSを経て実施内容を決めるため震災前の実施イベントや現在実施しているイベントを提示)

5 (1) 基本計画（設計）について

基本計画とりまとめに向け、設計JVから提示された施設コンセプト（案）についてご意見を伺いたい
と思います

施設コンセプト（案）【設計者案】



添付または別紙

施設機能融合の考え方

2-1施設機能融合の考え方

具体的な機能融合については、資料情報計画に整理する。
ここで指す資料とは、大熊に関わる全ての人・図書資料・博物館資料である。

具体的な機能融合に際し、まず各機能を細分化する。
各機能を細分化し、機能の特徴を理解したうえで、融合できる部分、融合には一定の課題解決が必要な部分を洗い出し、融合の手法について今後検討をすすめる。

図書館機能 (1/5)

赤字：特にご意見・知見を伺いたい箇所

教育総務課としての方針・課題

2-2図書館機能

(1) 図書館の基本方針

基本構想のコンセプトと活動方針を上位概念とする。

【現状】

- ・大熊町図書館の、明文化された基本方針は存在しない。「図書館の自由に関する宣言」をカウンターに掲示
- ・図書館条例はあるが、現在図書館協議会が機能しておらず、上位機関である社会教委委員会にその役割を依頼している状態。

【基本方針の方針】

- ・**コンセプト、基本方針で包括できない事項について、改めて方針を定める必要があるか。**

(2) 資料収集方針・書架配置方針

【資料収集方針と選書基準】

- ・大熊町図書館では内規として選書基準が存在していたが、震災を経て、**新たな資料収集方針及び選書基準が必要**と認識。
- ・図書館資料の構築と管理に関する計画の基盤とする。
- ※一方で博物館資料との合同管理の視点も入れて協議したい。大熊町資料についての議論が必要。

【資料の構築と管理】

- ・資料の選択・保存(量的、質的両面で)と資料の管理(資料の毀損・紛失の防止、廃棄資料の活用等)
- ・パンフレット・ちらし、視聴覚資料、電子資料の収集 など

【地域資料の収集・提供等に関すること】

- ・地域資料に限定した資料の構築と管理※【】の内容
- ・非流通資料を中心とした地域行政資料、郷土資料の収集・保存・提供
- ・郷土資料のデジタル化と情報発信 など

【分類方針】

- ・**資料分類はNDCを採用する。**利用者の状況を鑑み、必要があれば一定の分類を別置配架として、利用者の利便性向上に努める。

【書架配置方針】

- ・**カウンターの数は一つ**としたい。
- ・**開架コーナーは日常的な会話程度の音量を許容した、緩やかな1フロアで配置**としたい。配架場所の変更は図書館では利用状況に応じて実施するものなので、配架場所変更にも対応した書架配置としたい。
- ・**資料区分（一般・児童・参考）に関しては資料区分ごとの配置がよいか、混配がよいか。**地域資料・特定主題についてはコーナー配架が良い。
- ・**バリアフリーの観点から書架間隔・書架の高さを考慮したい（後述資料あり）。**

図書館機能 (2/5)

赤字：特にご意見・知見を伺いたい箇所

教育総務課としての方針・課題

2-2図書館機能

(3) 図書館サービス

【課題】

・大熊にかかわるすべての人を利用対象にどう広げていくか＝利用範囲の整理

- ・閲覧、レファレンスサービス...全ての人
- ・資料貸出...範囲を設けるか、制度設計上、対象者別の利用制限や
- ・費用負担のサービスごとに設定するか。

※震災前：双葉郡内在住、在学、町内在勤を貸出サービス対象

【貸出・リクエストサービス】

≪震災前≫

- ・図書・雑誌・紙芝居 7点 2週間 (次の利用者がいない場合延長可)
- ・視聴覚資料 (CD.VT.DVD) 3点 1週間 (延長不可)
- ・リクエストについては、購入に関して上限を内規で設けていた。1冊当たり上限3000円、月2冊まで

≪今後の検討≫

- ・貸出(閲覧、複写サービスなども含む)・返却、自動貸出／自動返却 (システムと連動)、電子図書の貸出
- ・貸出資料受渡サービス (図書館閉館後や休館日の貸出) ※参照：紫波町「貸出ロッカーサービス」
- ・リクエストサービス、読書案内 など

①資料貸出・閲覧・レファレンスサービス

【レファレンスサービス】

- ・利用者教育、情報検索
- ・レファレンスサービス **3機能を融合したレファレンスサービス、情報蓄積、共有の体制構築。**レファレンス協同データベースへの参加、パスファインダー

・利用者資料・情報提供依頼への対応、レフェラルサービスなど

【図書館ネットワークと他との連携】 図書館間相互協力等に関すること

- ・蔵書情報の提供手段 (OPAC横断検索システムの構築と運用、蔵書目録、図書リスト)
- ・物流システム、広域利用、図書サービス網 (既存機能の有効活用)、公立図書館・大学図書館との連携 など

【広報・PRと研修】図書館サービスを発信し、支える計画

・図書館の広報戦略

- ・図書館行事 (展示会・講演会・相談会、ブックリスト、新着案内など)
- ・掲示等のインフォメーション機能、図書館ホームページの作成及び充実
- ・マスコミへの情報提供 など
- ・図書館職員研修に関する計画
- ・総合的、経験年数別、サービス別等の研修、マニュアル整備、研修方法の定期的見直し、改善 など

図書館機能 (3/5)

赤字：特にご意見・知見を伺いたい箇所

教育総務課としての方針・課題

2-2図書館機能

(3) 図書館サービス

②デジタル資料情報整備

【地域資料のデータベース】

町刊行物については積極的にオンラインで閲覧可能な状態に整備する。デジタルアーカイブとの協同

③早期サービス開始

【R6】

移動図書館車運行（富岡町との連携）町ホームページに地域資料のデータを公開し、閲覧可能な状態に整備する。

※本格的なサービスを行うにはシステムの選定は必須（R6年度中にはシステム機能の大まかな方針を決めたい）

【R7】移動図書館車運行（富岡町との連携）、地域資料のページの充実、システムの方針決まれば電子書籍のみ貸出

【R8】移動図書館車運行（富岡町との連携）、地域資料のページの充実、電子書籍貸出

(4) 利用対象別サービス

①各年代・世代向けのサービス

【児童・青少年へのサービス】

・乳幼児サービス / ・児童サービス / ・青少年(ヤングアダルト)サービス

【図書館利用に障害のある人へのサービス】

・視覚・聴覚・肢体不自由・知的等障害の種別に応じたサービス / ・高齢者サービス / ・DAISYの導入など施設・備品等の改善 / ・アウトリーチサービスなど

【多文化サービス】= 公民館機能と協同

・外国語資料の収集・整理・保存・提供 / ・多言語サービス / ・諸外国の理解と自国文化の紹介 など

②大熊に関心を持つすべての人たちへのサービス

【大熊で学ぶ支援・仕掛け】

・利用者の学びの階層に応じたグラデーションのある支援や学び（博物館・公民館と協同）

・年代別、利用者層別の仕掛け

※郷土学習の入り口から深い学びへ

【課題解決・地域支援サービス】

・ビジネス支援 / ・行政支援 / ・農業支援 / ・医療・健康、法律情報 / ・子育て支援情報 など

※オンラインデータベースの導入

【地域との連携の促進】

・図書館ボランティアの場の提供 / ・地域内外の行政機関との連携・協力 / ・N P O・各種団体等各種地域団体との連携 など

図書館機能 (4/5)

赤字：特にご意見・知見を伺いたい箇所

教育総務課としての方針・課題

2-2図書館機能

(4) 利用対象別サービス

③移動図書館

図書館サービスの不十分な地域に直接出向いて奉仕するために、図書館資料を積んで移動する自動車。大熊町図書館でも公民館図書室時代から運行し、大熊町図書館開館後は、一人では来館が難しい子どもに対して、小学校への運行を実施し、事業を展開していた。

＜震災前＞

移動図書館車ひまわり号運行、町内学校月2回、町内移動図書室の本の入れ替え作業、ネットワーク物流便

＜今後の展望＞

学校への運行、図書館サービスの不十分な地区や、来館が難しい方への運行サービスのほかに、屋外でしかできない読書体験（イベント参加）への活用はあり。

館外へのアプローチについては多機能とも連携して考えていきたい。出張博物館、出前講座等

・書架間隔...書架間の幅員を車いすが回転でき、また、車いすと人がすれ違える寸法である**150cm程度**

・閲覧机...車いす利用者に対応し、高さ調節機能の配慮

・カウンター...筆談ボード、補聴設備、車いす利用者に配慮して、奥行き45cm以上、高さ70cm程度のけこみを配慮、蔵書検索機（OPAC）タッチパネル

・対面朗読室...震災前の図書館にはない機能。他の機能と共有して設置できないか。例えば資料閲覧や地域資料等の音声読み上げの録音など

・弱視、見えにくい方へ...大活字本、拡大読書機等利用者などが読みやすいよう配慮

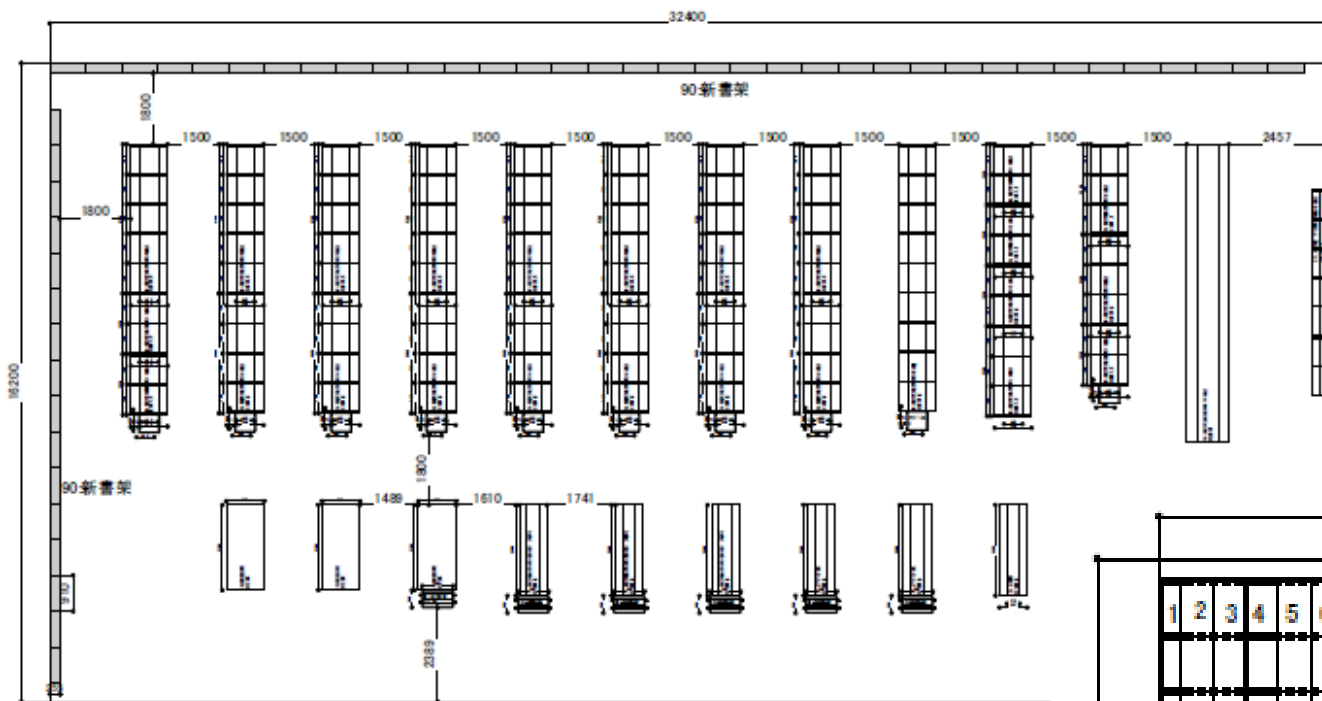
・閲覧室への誘導...道路からカウンターまで、誘導用床材により誘導。各部門へは職員が誘導。

(5) ユニバーサルデザイン

（施設共通事項は別記載）

図書館機能（5/5参考資料）：開架書架・閉架書架

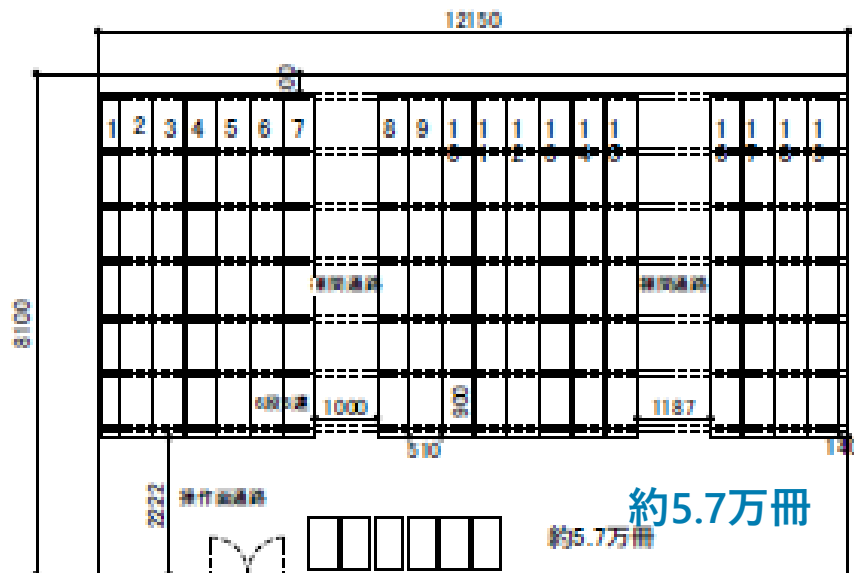
開架書架配置（検討用）



(設定)
本の厚み = 20mm
書架間隔 = 1500mm

約7.78万冊
約525m²

閉架書架配置（検討用）



約5.7万冊

博物館機能

赤字：特にご意見・知見を伺いたい箇所

教育総務課としての方針・課題

2-3博物館機能

(2) 資料収集・保存計画

※搬入動線について

- ・レスキュー資料等は汚れている状況
- 一度施設とは別の仮置き保管場（現在総合体育館を活用）に資料を搬入
- クリーニングと簡単な目録取りを実施
- 外部で燻蒸を実施、資料の性質毎に収蔵庫を選択し収蔵。

(3) 展示機能

※常設展示機能

- ・基本構想時は点在と記載
- 常設展示室を設けて、機能面として図書館機能との融合を行う

※企画展示機能

- ・町民協働の展示は実施していくが、貸出機能としては使わない。（ケース貸出等は不可）
- ・ギャラリースペース

(6) 燻蒸・放射能汚染対策について

- ・燻蒸室は設けない（外部燻蒸で対応）

公民館機能

赤字：特にご意見・知見を伺いたい箇所

教育総務課としての方針・課題

2-4 公民館機能

※他施設との考え方

ほかの公共施設との連携、住み分けが公民館は特に検討必要かと思う。
成人式もゆめの森で開催する。ちなみにリンクルでは「生涯学習」ともいえる事業も実施。
教育委員会が関与していないというだけで、町に同種事業はすでに存在している中で、リンクルの指定管理者と連携した事業の組み立てができればいい。
大川原の人は、リンクルやゆめの森をメインに活用することを想定し、社教施設は主に大野周辺の人たちの活動の場としてとらえられるか。

加えて社教施設は生涯学習の拠点（公共図書館と分館の関係みたいに）として整備する場合、ほかの分館（この場合リンクルやゆめの森やインキュベ）には不要だけど拠点施設に必要な設備はあるのか？

機能共通

赤字：特にご意見・知見を伺いたい箇所

教育総務課としての方針・課題

2-5 機能共通

(1) 周辺施設との連携・交流	<p>【施設機能】</p> <ul style="list-style-type: none">・大熊町町内施設全体における機能と役割分担の整理・下野上地区と大川原地区とでの機能重複と機能分担の要否・学び舎ゆめの森学校図書館との分担 など <p>【施設管理】</p> <ul style="list-style-type: none">・下野上地区周辺施設との効率的な管理
(2) ユニバーサルデザイン	<ul style="list-style-type: none">・フロア...車いすでの移動も容易にできる段差のないフロア・手すり... 2つの高さの異なる手すりを設けるなど配慮。また、階段手すりに、点字表記を取り付け配慮。・車いす使用者用駐車スペース... 2台以上確保。震災前は入り口付近にあるも庇がなく雨の時は濡れてしまった。車いす使用者用駐車場スペースへの誘導サインもあるとよい。・スロープ...勾配の緩やかなスロープ・トイレ...児童コーナー近くには子供用補助便座付き、あるいは子供用トイレ・多目的トイレ...少なくとも1か所、オストメイト対応・小便器...手すりが配置されている小便器を各便所1台以上設け・授乳室...乳幼児を連れた母親に配慮し、授乳室を設ける配慮・総合案内板...道路から1階エントランスの総合案内板まで誘導用床材により誘導。総合案内板に施設平面を点字表記し、音声装置の設置については検討。・車いす対応エレベーター・緊急時の避難...音や光による避難口誘導
※施設利用者のイメージ	<ul style="list-style-type: none">・町民に利用していただく施設・大熊町を知ってもらうきっかけとしての複合施設・周辺施設への波及効果。一元利用にはならない工夫・人を集めるためだけの目的に、大熊に無関係な展示はしない方針

5 (2) ワークショップの進め方について

集められた気持ちは183件で、一人一人に当施設をご紹介する機会となりました

10/21 (土) ふるさと祭りWS実績報告

■実績

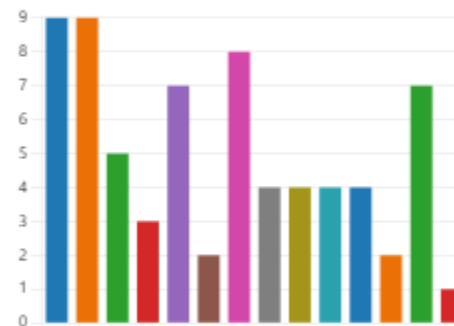
- 絵馬数：183 (182 + 1持ち帰り)
- 連絡先取得数：21件

- ✓ 心地いい空間のヒントとなるなりたい気持ちや状態を手繰り寄せることができる情報が満載。直接的に空間や過ごし方に関する表現もある。設計者に共有し、空間づくりに活用いただく。
- ✓ 今後は、町のイベントの機会以外からくる学生や学校で子どもたち、福祉施設など対象を絞って同じ手法（記憶の森）で情報収集に取り組む
- ✓ 記憶の森を通じて関係性ができた人達にはワークショップを個別に案内する



▲当日のブースの様子（開始時）

● 施設の使い方ワークショップ	9
● 空間づくり設計ワークショップ	9
● 建設現場ツアー	5
● 家具選びワークショップ	3
● 開館後の企画づくりワークショップ	7
● 施設のルールメイキングのワークショップ	2
● 図書にまつわるワークショップ	8
● 町の資料や文化財にまつわるワーク...	4
● 町の記録に関わるワークショップ	4
● 過去に大熱町で行っていた活動の...	4
● 誰かと共有したい自分の持ち込み...	4
● 誰かと一緒にやりたい自分の持ち込...	2
● 異世代交流会	7
● その他	1



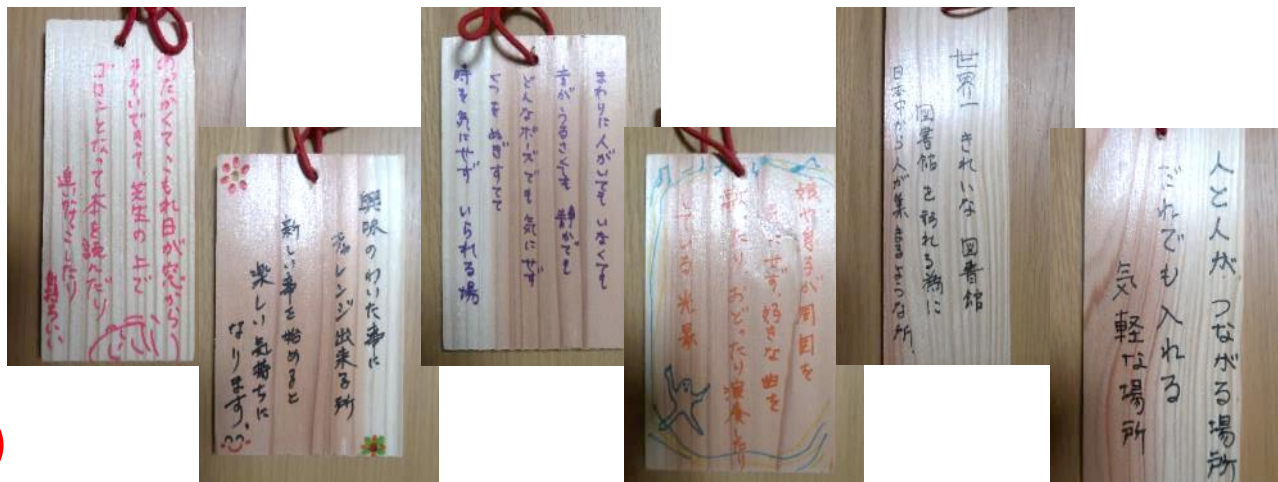
▲連絡先受領者によるアンケートの回答結果「今後どのような企画に参加してみたいですか」

【参考】得られた絵馬の様子 (一部) 1 / 3

手を大きく開いてみてください
あなたにある全ての力を振り絞って

そして
想像してみてください
あなたが、ずっといたくなる場所を

それはどんなところですか？
どんな気持ちになりますか？



想像してみてください
空を見上げながら
地球の輪郭を
宇宙を

そして
想像してみてください
あなただけの虹の色彩を

それはどんな色たちですか？
なぜですか？



【参考】得られた絵馬の様子（一部） 2 / 3

まぶたを閉じて
想像してみてください

自分一人ではできないけれど
誰かと一緒だったらやってみたいことを

そこには何があって
どんな気持ちがありますか？



自分の手を握りしめ
自分の体温を感じてください

そして
想像してみてください
大切な人が嬉しそうにしている様子を

それは
どんな光景ですか？



【参考】得られた絵馬の様子（一部） 3 / 3

深く呼吸をしてみてください
なんどでもいいから
想像してみてください
恋をしている自分を

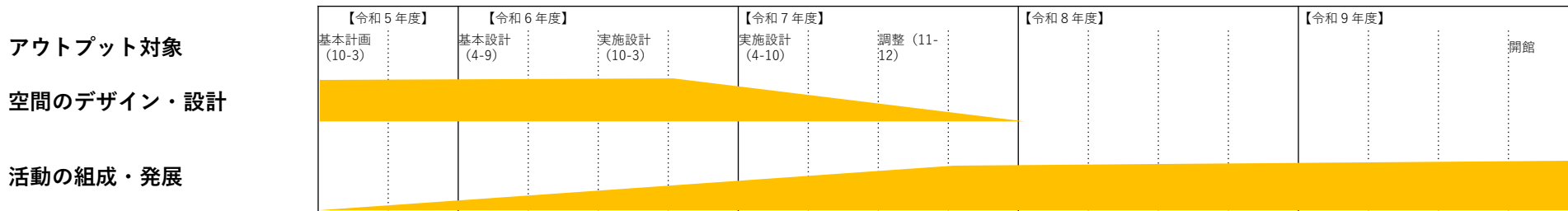
教えてください
やさしさを伝える方法を
やさしさが伝わる行動を



対話の機会を通じて空間づくりに反映させる情報収集は令和5年度から実施設計前半にかけて機会を設け、ターゲットを設定せずに広く募集します。令和6年度の後半から、対話の機会を得た個人の想いや願いを開館後のプログラムや活動の組成・発展につなげる計画としています

アウトプットベースで捉える各企画の位置づけ

対話の機会のアウトプット対象の変化



対話の機会の考え方

テーマに限定されない関わり方を提供する
横軸の関心度フェーズ

施設への関心度に依らず新しい関わりしるを提供する
縦軸のテーマ

関心度	活動イメージ	企画内容	
関心度1	町内行事（人が集まる機会の活用）	各種祭り、町政懇談会・住民説明会での質疑応答・意見交換	●
関心度2～3	ワークショップ（活動づくりに反映）	開館後新規企画づくり、資料や図書にまつわる企画、はじめての一步企画、開館セレモニー企画、発表機会	●
	ワークショップ（空間づくりに反映）	マナビバ、カタリバ、タマリバ、ミセバ、ツクリバの各“バ”がどんな働きをするか、各“バ”でどんなことをしたいか、どんな自分でいたいかを考える企画	●
関心度3	既存の社会教育団体の活動機会から派生したテーマ（活動をそだてる）	異世代融合企画（別世代が活動に参画）、関係ができた人々でさらに新活動創造企画	●

認知度拡大のため、町内行事を活用して、令和6年度まで直接対話の機会を設けます。文化展などの社会教育活動のお披露目の機会を1つの目標として、社会教育団体の活動テーマを軸とした異世代融合の企画や開館後の新しい活動の立ち上がりにつながる新テーマの企画をアンケートの結果等を踏まえて計画しています

対話の機会の5か年計画

		基本計画					基本設計					実施設計														
		2023年（令和5年）度					2024年（令和6年）度										2025年（令和7年）度									
		10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
関心度 1	活動イメージ																									
	認知拡大	ふるさと祭り							学校	福祉施設			夏祭り		町政懇談会							学校				ふるさと祭り
関心度 2~3	活動づくり															愛称WS										
	空間づくり				5つの“バ”を考える	5つの“バ”を考える	5つの“バ”を考える	機能計画			空間イメージ							管理運営								
関心度 3	活動そだて																								ふるさと祭り出店文化展発表	

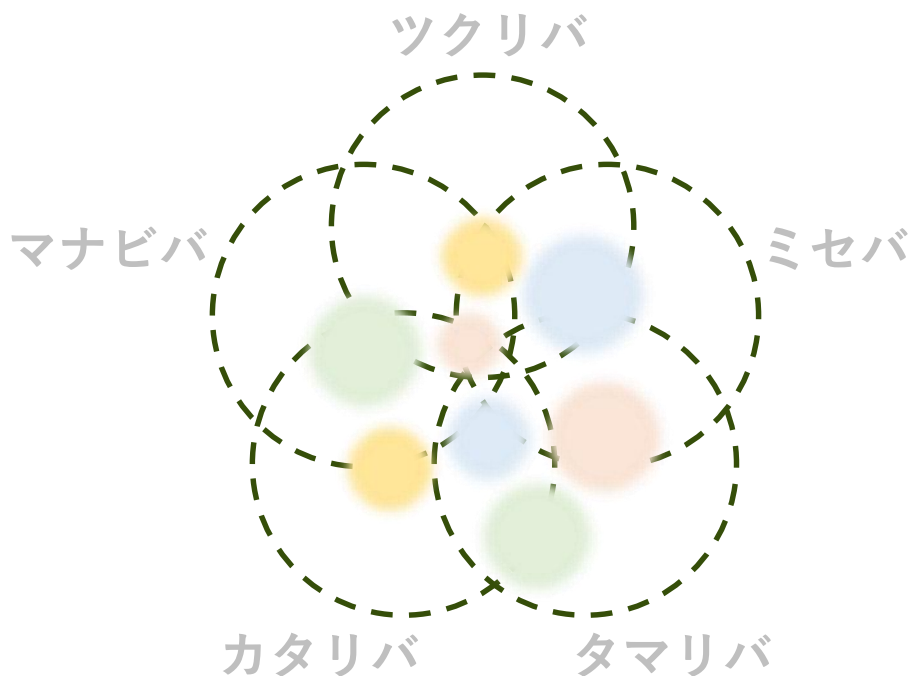
		調整			工事																									
		2025年（令和7年）度			2026年（令和8年）度									2027年（令和9年）度																
		11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
関心度 1	活動イメージ																													
	認知拡大			成人式																										
関心度 2~3	活動づくり																													
	空間づくり																													
関心度 3	活動そだて																													

WSを通じて開館後の利用者の実際の活動イメージから5つの“バ”を定義し、求められる機能を整理のうえ、施設整備基本計画と情報環境基本計画を策定します

令和5年度施設づくりワークショップの考え方

(基本計画時の視点)

活動から考える



望まれる活動から5つのバを立ち上げ定義する
活動が多面的であるがゆえの融合
活動、空間、機能、情報環境の関係づけの精緻化

STEP1

「できたらいいこと（活動）」を起点として
自分たちにとって「できたらいいこと」を共有し、
それらを実現するためのバのあり方を考える

STEP2

バの実現に必要な
施設の空間・オンラインのサービス・機能を見出す

STEP3

それによって、望ましいまちや暮らしの実現のため
に必要とされる施設像を計画として共有する

成果品

オンサイト⇒施設整備基本計画
空間をつくるコンセプトの定義

オンライン⇒情報環境基本計画
情報環境のサービス・機能の定義

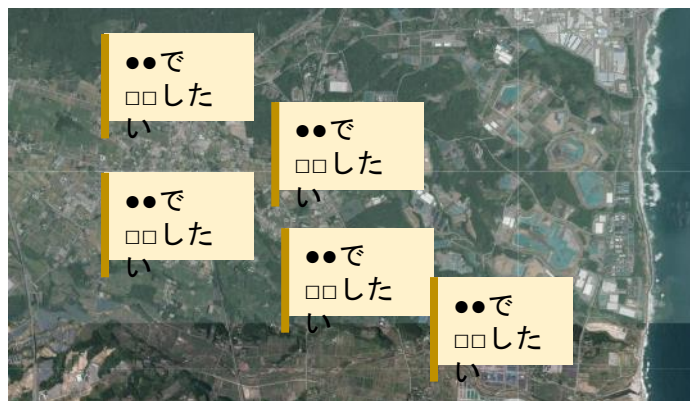
施設づくりのWSは令和5年度内に1～3月で計3回実施します

令和5年度空間づくりワークショップの各回の概要

みらいのおおくまマッピングワークショップ

	日時	テーマ
1	2024年 1月27日 (土) 13:30～16:30	やりたいことを「集める」
2	2024年 2月11日 (日) 13:30～16:30 (予定)	やりたいことを「編む」
3	2024年 3月2日 (土) 13:30～16:30 (予定)	やりたいことを「叶える施設をつくる」

※This image is generated by AI



1月ワークショップ

- 過去の町の開催ワークショップで捉えた意見を踏まえて基本構想の概要を説明
- 自分たちにとっての「できたらいいこと」を考え、大きな町の地図に旗を指しながら、背景にある想いや願いを共有する
- 施設の特徴を踏まえて、想いや願いを実現する方法としての「できたらいいこと」を絞り込む

事務局

- 「できたらいいこと」の整理によるバの特定
- 3つの機能に展開し、バと機能を結びつける

2月ワークショップ

- 5つのバを前提としつつ「できたらいいこと」を昇華する
- 1月WSの内容と、基本構想策定時WSで話された情報発信に関する「やりたいこと」も含めて、活動として具体化する。
- 「実際にやってみる」ことを前提として、企画書をつくるようなワークを想定
※1月ワークショップの参加者のスタンスを踏まえて判断

事務局

- 「できたらいいこと」をベースに家具レベルの設え（空間をつくる単位要素）を検討
- 「できたらいいこと」から情報環境に実装するサービス・機能の検討
- 運営に向けた実践を通じた検討プロセスの検討

3月ワークショップ

- 基本計画を説明し、参加者が「やりたいこと」ができる施設になっているかどうかの観点（機能論的な観点）から計画について意見をいただく
- いまからできる自分たちの活動を考える

継続的に活動を行っている団体でも、避難先が各地に分散しており、震災前の活動内容を同じような活動頻度、メンバーで町内で実施する難しさに直面しています

大熊町社会教育団体ヒアリング結果（定期的活動継続団体） 1 / 2

	女性会	国際交流協会
現在の活動状況	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 総会は現在年数回程度。本部の役員が残った状態。 ✓ 各地に散らばる会員をつなぐ活動として、広報を出したり、研修をしたり、総会（郡山）を行ったり、ふるさと祭りに出店したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 組織の活動人数は今日参加している4名+数人。 ✓ 会津に避難していた時にいたときやコロナ期間中にもオーストラリアから来てくれた。 ✓ 2022年は大熊で働いている海外の方との交流の場を設けた。
震災前の活動状況	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 文化展、芸能発表会を文化センターで行っていた。 ✓ 各地域に集会所に月1回集まって、本部からの伝達事項を共有し、自分たちのできる活動をやることと、町民体育祭のお手伝いをするのが中心の活動。 ✓ 町の本部でまとまっていく。各地域での交流が大きかった。 ✓ 研修、町のイベント、自分たちの地域の活動だけではなく、参加する ✓ 自分たちの得意なことをみんなで持ち寄って各地域で行っていた。地域によっては梅の漬け方、味噌の作り方を共有したり、イチゴ大福を作ることもしていた。ひもでバックを作るなど。 ✓ 総会は月1回開催。毎回広いところを借りており、宿泊施設で総会をすることもあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 町の考えまちづくりはひとつりであるから、子どもを育てなければいけない。その一環として、国際交流協会としては、異文化研修として町の子どもの外国に出すことや、ホームステイの受け入れでほかの地域の文化を学ぶ機会、英語教室などを行ってきた。 ✓ オーストラリアに高学年～中学生を8泊10日で送り出し、ホームステイを行った。35年近く続けている。延べ2,500人近くを送り出している。 ✓ オーストラリアからは30人も毎年受け入れている。着物着せたり、お琴、お茶、じゃんがらなどを経験させている。 ✓ このほかの交流活動として、改善センターの2階でBBQなどをやっていた。
困っていること	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 震災前に比べて地域が機能していないので、次の世代につなぎにくい。 ✓ 本部役員が県内外に散らばっているため、集合に一苦労。活動頻度をあげにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 組織のメンバーは大熊町から遠くに住んでいるので、活動頻度は高くすることが難しい。若い人がいない。さらに大熊在住者もほとんどいないところ。 ✓ 復興住宅にいる人に声掛けして参加して欲しいと思うが、参加できるようなイベントがないといけない。どんなイベントとすべきか。
複合施設へ期待すること	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 印刷機械もそろっている自由に使いやすい会議室がほしい。交流をしながら、料理教室をしたいので調理室がほしい。 ✓ 遠くから来た人が個人の方が使えるロッカーがほしい。（大野駅にロッカーがないため） ✓ 震災前にやっていた活動ができるような場所が欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 使い勝手のいい小さい会議室、大きい会議室はほしい

次の世代だけでなく、伝える側の減少や集まる難しさにより、大熊町固有の特徴や伝統文化に触れる機会が限定的とならざるを得ない状況があります

大熊町社会教育団体ヒアリング結果（定期的活動継続団体） 2 / 2

	ふるさと塾	熊川稚児獅子舞や盆踊り、夏祭りなど
現在の活動状況	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 地域人材育成の講演に集まった人と、賛同した人たちがはじまり。 ✓ 月2回活動日を設定。石田家の手入れやホテル保全の活動を実施 ✓ 町内、近場にいる人で4人程度、町内居住は2人、週4日以上町にいるのは5人程度。 ✓ 文化財レスキューの手伝いやホテルの調査、民話集の政策と自費出版などを行ってきた 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 町として夏祭りや盆踊りを避難先で実施 ✓ 熊川稚児獅子舞は、震災後は保存会が避難先のいわき市などで子どもたちに舞を継承。2022年に震災後初めて双葉郡内で披露。
震災前の活動状況	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 生涯学習課が持っていた、青少年健全育成団体、フレンドリー教室（小学4～5年生主体）の後方支援 ✓ 学校教育ではやらないような川の生き物調査、森の案内人、子どもたちの田植え体験などを自主事業として行っていた ✓ 自分たちがやりたいと思うこと、楽しいと思うことをやってきた 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 稚児獅子舞は、震災前は毎年諏訪神社に奉納していた。 ✓ 各地区で盆踊りをやっていた。町で全体の盆踊りもやっていた。 ✓ 各地区でBBQや花火など集まってイベント事をよくやっていた。
困っていること	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 塾生の高齢化と組織存続 ✓ 塾生が散らばっていて活動そのものを行うの難しいし、時間が短くなっている ✓ 活動に使う道具の置き場所 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 稚児獅子舞や盆踊りなど、地域の人を見て真似てできるようになる。笛太鼓も見て覚えるのが基本。しかし、踊り手がいなくなればなくなってしまふ。どうやってつないでいくか。自分たちで終わらせたくない。 ✓ 子どもと大人と一緒に練習することによって、各楽器屋踊りもつながりが見えてくるが、練習の場がない。
複合施設へ期待すること	N/A	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 室内でも多目的ホールで星空講演会ができればいいのではないかな。 ✓ 公民館は利用頻度は土日が多いので土日使えるようにしてほしい。 ✓ 震災前の町のジオラマがあるといいのではないかな。地区に残っていた伝統芸能を伝える ✓ 雨降っても盆踊りができるようなドームがあるといい